

#### (4) 経済学教育FD/IT活用研究委員会

本委員会（委員長：林 直嗣、法政大学）は、20年4月、7月、9月、10月、21年2月の計5回開催した。検討に当たっては、企業から求められる経済学的素養について関係企業を招請しヒアリングするとともに、教員がイメージする能力とのマッチングを行い、統計などの数的処理力、語学・表現力、データに客観的判断思考などを確認した。その上で委員会は、学士力のイメージとして、①経済生活や経済全体の仕組みが相互依存関係にあることの理論的な理解、②経済の歴史・制度、経済情勢の認識、③経済理論の活用による意思決定・政策判断、④経済データに基礎にした科学的思考、⑤経済から派生する問題を個人の問題として考えるの観点から最低限身につけるべき能力を整理し、経済学担当教員637名（サイバーFD研究者）へインターネットで意見を求めたところ、57名から意見を伺い、それにもとづき見直しを行った結果、以下の通りの中間的に取り纏めた。

##### <経済学教育における学士力>

1. 日常の経済生活や経済全体の基礎的な理論を理解できる。
2. 経済の歴史や制度と今日の経済情勢の知識を身に付ける。
3. 国内外のさまざまな経済政策の基礎的な知識を理解できる。
4. 経済データの意味を理解し、必要なデータを収集・整理して、統計的な処理ができる。
5. 現代社会の経済問題の倫理的側面の重要性を理解できる。
6. 経済問題を総合的に分析し、自主的な意思決定に活用できる。